

おあう

早稲田の方葉外に此文りこまう
 如何成りしよかと学校のおもひが
 教育のおもひを念羅を知ら幸に
 書座が牛の斤が付まれば表すく
 されども之が存に多年の縁を絶つて
 至れぬ法納隠ハふ自らから葉分
 ハ法おまへ 只堤来算大の法意献ハ
 事實とて動かまぬを今りか
 ねりあひて一層之を人々が解得
 可仕を信しんがうと培裁ながら一言
 慰問の情を表す也

八月三十日

朝河貴一

市嶋謙吉様

